

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	箱石 拓也	所 属	U18 カテゴリー		
大会名	SoftBank Winter Cup 2025				
期間	2025年 12月23日 及び 25日				
会場	東京体育館				
スケジュール					
期 日	内 容	場 所			
月 日	審判会議なし				
12月 23日	星城（愛知）VS 星槎国際湘南（神奈川）	東京体育館			
12月 25日	仙台大明成（宮城）VS 興南（沖縄）	東京体育館			
審判会議、研修会 講義内容					
担当試合①					
期 日	12月 23日（火）女子一回戦				
対戦カード	星城（愛知）VS 星槎国際湘南（神奈川）				
ク ル ー	CC：竹澤友美氏（埼玉） U1：箱石拓也 U2：斎藤夏実氏（東京都）				
ミーティング内容		審判主任：なし			
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>チーム戦術の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 青：外国籍の選手にどれだけ寄り添えるか？ポストプレイとリバウンド。感情も表に出していくので、そこにどう介入していくか？身長は高くないがスクリーンを多用して、オープンプレイヤーにショット（3ポイント）打たせることを徹底してやってくる。 白：白6ピックマンのスクリーンとチェンジングディフェンスをしながら、走って攻めてくるチーム。アウトサイド主体とドライブから合わせが武器。※お互いにフルコートプレスとハーフコートマンツーまたはゾーンディフェンスを仕掛けてくる。 <p>キープレイヤーの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 青：32と24と27 白：16と4と7 <p>外国籍の選手がいるので、国籍のミスマッチはあり。外国籍ポストプレイに対しては、早めのローテーションを心がける。</p> <p>プレイコーリングの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 手の使い方や体の寄せについてはゲーム序盤から obvious なものに対してしっかりとコールしていくことで、コントロールを効かせつつ、スムーズに、タフに展開させていく。 ルーズボールやリバウンドはタフにやらせてあげたい。 <p>メカニクスの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> Tシャーターが沢山いるので、AOSと3OR2を確認できるポジションアジャストをより意識して。 Cトランジション中に起こりうるコンタクトから NF OR UF ケースについてしっかりと見極め。HDRについて：任せすぎず、Cのプライマリーから判定できるものが沢山あるはずなので、cadence whistle の準備を忘れずに。C primary の HDR もあることを忘れずに。 Lペイントで起きたことへの気づきを増やしていきましょう。（HDRも含め）ローテーションのタイミングは、状況にもよりますが落ち着いてスムーズに対応する。 <p>SCは16秒表示で8秒成立</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームの序盤から両者ともに集中していた。コンタクトは至る所で起きていた印象。ゲームには影響ないようにコントロールしていく気持とタフなゲーム展開をさせたい気持ちを自身の中で、整理をつけながら判定に集中するよう心がけた。ゲーム自体も接戦だ 					

つためゲームの波が高い時間帯が複数回あったため、クルー間でのコミュニケーションを絶やさないよう意識した。その中で、クロック管理を求められるシーンが複数回あった。自身のプライマリーとしてデリバリーできたケースもあれば、クルーに頼ってしまう部分があったことが反省。全体的には落ち着いて判定できていたと思う。課題は、クルーのコールとプライマリーを尊重できるか。自分の感性や引き出しと情報だけでゲームを進めてしまいがちな傾向がある。クルーへの影響＝ゲームへの影響と考えて、試合を進めていくべき。自身のプライマリーでの業務を徹底していきたい。

担当試合②

期　　日	12月25日（木）男子2回戦
対戦カード	帝京長岡（新潟）VS光泉カトリック（滋賀）
ク　ル　ー	CC：飯尾（大阪）U1：根本（茨城）U2：箱石拓也（埼玉）
ミーティング内容	審判主任：加川さん

▶ゲーム前のPGC

キープレイヤーの確認

・赤：4と9　・白：15と5

白は外国籍の選手が2人いるので、国籍のミスマッチがあり。ポストアップ、スクリーン、ボックスアウト、リバウンドについてしっかりと確認して進めていきたい。

プレイコーリングの確認

・手の使い方や体の寄せについてはゲーム序盤から obvious なものに対してしっかりとコールしていくことで、コントロールを効かせつつ、スムーズに、タフに展開させていく。

メカニクスの確認

・L 外国籍に対する日本人の守り方を常に意識して、ローテーション。ペイントで起きることへの気づきを増やしていきましょう。（HDRも含め）ローテーションのタイミングは、状況にもよりますが落ち着いてスムーズに対応する。

映像確認 1：ローテーションをした際にオリジナル C が気付いていない時がある。気づかないままゲームが進んでしまうケースがあるので、コミュニケーションとアイコンタクトを忘れずに。

▶ゲーム後のミーティング

大きなトラブルなく終われた。外国籍選手の IC と GC を積極的にチャレンジできた。しかしながら、プライマリーやクルーワークや笛の鳴らすタイミングの課題を再認識した。自身の反省の中で、頭の中で予測しているものが起きた際に、突発的に笛で表現してしまうことが多い。またその逆で、頭の中で分析していることが目の前で起きてる際に、そのタイミングで吹くべきものを長く判定しすぎてしまい、判定にズレを生じさせてしまう事があった。自身のマインドの波をどうにコントロールしていくかで、自分の表現の仕方も変化することを改めて実感した。①プライマリー ②オビアス ③クルーワークの三つを大切にして次の試合でチャレンジしたい。

全体の感想

まずははじめに、日本バスケットボール協会及び東京都バスケットボール協会の皆様には細部にわたるまで御配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。担当した2試合で感じたことは三つ、1 プライマリーを守ること、2 笛を鳴らすタイミング、3 マインドのコントロールこの三つが自身の課題を感じた。クルーワークを高めて、より良い試合の運営と高品質な試合の提供に全力を注げるよう力をつけていた。また、自身のライセンスアップにもチャレンジしていきたい。近年、バスケットボールは大きく変化をしており、レフェリーが選手やコーチの求めていることに対して、どれだけメッセージを伝えられるかどうかが問われている気がしている。オンザコートでは、苦しいことの連続だが、粘り強く取り組み、バスケットボールの価値を高められるような判定にチャレンジしていきたい。